

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：和東町

| プロジェクト名 | 茶源郷未来型交流のまちづくりプロジェクト | | 実施期間 | 平成28年度 | テーマ | 地域産業の育成 | 新規・継続の区分 | 新規 |
|----------------------------------|---|--------|--|--------|----------|---|----------|----|
| 地域における現状、課題及び住民ニーズ | <p>和東町は、少子高齢化や若年層の転出等で人口が毎年100人程度減少しており、このままでは和東町全体が限界集落に近い状況になることが予想される。それを防ぐためにも、交流人口の増加やそれによる雇用創出をより一層図るとともに、住民との協働によるまちづくりを進めて定住人口の維持あるいは増加に繋げていく施策が必要とされている。</p> <p>また、本町の基幹産業である「お茶」は、生産量、生産額とも府内一という実績であるが、山間部という地形から機械化が図れず、生産規模拡大が進まない状況にある。茶農家の高齢化も進んでおり、茶畑の維持が困難となった結果、管理放棄された荒廃茶園も見受けられる。さらに近年、「お茶」の販売価格も伸び悩んでおり、知名度の向上や品質の向上はもちろん、茶農家の担い手育成などへの積極的な取り組みが必要とされている。</p> <p>これまで課題だった交通環境の悪さは、京都府が宇治木屋線のトンネル化に向けた調査に着手するなど、和東町周辺の環境も大きく変わることが予想される。トンネル開通が実現した場合、利便性が大きく向上するため、「茶源郷和東」の知名度をさらに高め、地域資源である京都府景観資産登録第一号に認定された茶畑景観を、観光客誘致に活用するなどして、交流人口の増大による町の活性化が求められている。</p> | | | | | | | |
| プロジェクトの目的及び概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・「和東茶」や「茶畑景観」を活用した取組、「日本で最も美しい村」連合による取組、さらには宇治茶の「世界文化遺産登録」に向けた動きを活用し、交流人口の増加を図るとともに、地域ブランドの確立及び知名度の向上を図る。 ・そのために、和東町と住民、近隣市町村や大学連携等が一体となったまちづくりを進め、町のさらなる活性化を図る。 ・出品茶推進事業などで「宇治茶の主産地 和東」としての知名度を上げ、町内の基幹産業であるお茶の消費拡大・雇用拡大などを図り、茶の生産拡大や担い手の増加などを図る。 ・知識や経験を踏まえて創造性を発揮し、主体的・能動的に行動する職員の育成を図る。 ・和東町独自の生業景観保全のため、景観計画策定を踏まえて、大学や住民とともに景観条例策定に取り組む。 | | | | | | | |
| | 総事業費（千円） | 10,033 | 本年度事業費（千円） | 10,033 | 交付金額（千円） | 5,016 | | |
| プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績（出来高数値等） | | | | | | | | |
| 事業分類 | 事業名 | 事業種別 | 事業概要 | | | 主な実績（出来高数値等） | | |
| 市町村 実施事業 | 地方創生まちづくり調査研究事業 | 交付対象事業 | 宇治木屋線のトンネル化が実現した場合の経済効果とそれに伴うまちづくりの研究を委託 | | | トンネル開通後の町の姿について、人口動態や経済活動の変化などを明確にすることができた。 | | |
| | 和東町協働のまちづくり・ひとづくり推進事業 | 交付対象事業 | 早稲田大学との協働により、まちづくり・人材育成を図る | | | 入庁二年目と一年目の職員を対象に、政策課題を取り上げ議論を行った。あわせて、過疎高齢化の進む湯船区で休耕田の活用に向けて菓草の研究事例の提案と関係機関との橋渡しを行った。 | | |
| | 「日本で最も美しい村」連合事業 | 交付対象事業 | NPO法人「日本で最も美しい村」連合活動費 | | | 総会等への出席に加え、ともに加盟する伊根町との交流促進として、お互いの町で最大のイベントにPRブースを出展し、町のPRを行った。 | | |
| | 和東町PR事業 | 交付対象事業 | 「茶源郷和東」を有効活用し和東町のPRを行うために商標登録を更新 | | | 「茶源郷和東」の商標登録を更新することにより、今後も継続して同商標を活用し、PRを進めていく。 | | |
| | 茶源郷和東観光充実事業 | 交付対象事業 | 平成29年4月オープンに向けて観光案内所の運営の中心となる商工会で、研修期間における採用等準備を行う | | | 商工会の転居を行うとともに、観光案内所に勤務する職員の研修を行った。研修内容：接客（マナー）・基本観光情報・電気自動車用急速充電器利用方法 | | |
| | 電気自動車充電設備設置事業 | 交付対象事業 | 電気自動車の活用に向けた充電設備の設置 | | | 山城広域振興局主体の電気自動車を用いた観光推進に併せて、電気自動車用の充電器を整備した。 | | |
| 住民 協働 事業 | 出品茶推進事業 | 交付対象事業 | 茶品評会に出品する和東町出品茶推進委員会に対して補助 | | | 出品の奨励や摘み子の確保等を行い、町内出品茶の振興発展を図った。京都府茶品評会出品数：合計22点 | | |
| | 景観を活かしたまちづくり事業 | 交付対象事業 | 和東町独自の生業景観保全のため、景観計画及び景観条例を策定 | | | 景観条例制定に向けて原山区等で住民勉強会を開催した。また、重伝建地区指定に向けて湯船区でも区役員と協議を行った。 | | |
| | 地域ブランド育成事業 | 交付対象事業 | 新商品開発・6次産業化を通して和東ブランドを育成・普及 | | | リーガロイヤルホテル和東茶フェア（京都、大阪、東京）や茶源郷和東満喫イベントの開催、PR資材等を作製し、和東ブランドを広くPRした。 | | |
| 住民が 取り組む 事業 | 協働のまちづくり補助金事業 | 交付対象事業 | 地域住民によるまちづくり活動に対して補助 | | | 地域課題を解決するために活動している住民団体（本年度は3団体）に活動費を補助することで、町の伝統行事復活による住民同士の交流や子育て世代の交流機会の増大を図った。 | | |

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：和東町

| | | | | | |
|---|---|---|--------|--|-----------------------|
| 成果指標① | 成果指標の目標数値 | 人口動態 H27 4,210人 → H28 維持 | | 成果指標の実績値 (○年○月○日時点) | 平成29年3月31日時点 4,130人 |
| | 成果指標の達成状況 | △ | (左の理由) | 生活上の利便性が高い近隣市町村への転出が止まらなかった。 | |
| | 成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期 | | (理由) | | (時期) |
| 成果指標② | 成果指標の目標数値 | 交流人口 H27 81,783人 → H28 85,000人 | | 成果指標の実績値 (○年○月○日時点) | 平成28年12月31日時点 94,463人 |
| | 成果指標の達成状況 | ◎ | (左の理由) | 地域住民自身の取り組みやパンフレット・啓発物品等の充実、イベント等でのブース出展など各種PRが効果を上げていていると考えられる。 | |
| | 成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期 | | (理由) | | (時期) |
| 成果指標③ | 成果指標の目標数値 | 茶源郷まつり来場者数 H27 7200人 → H28 8000人 | | 成果指標の実績値 (○年○月○日時点) | 平成29年3月31日時点 9,800人 |
| | 成果指標の達成状況 | ◎ | (左の理由) | イベントの知名度向上に加え、MTBの体験コーナーを行うなど新たな内容に取り組んだことも、来場者数の増加につながった。 | |
| | 成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期 | | (理由) | | (時期) |
| 本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること | <ul style="list-style-type: none"> ・町内で積極的に地域課題の解決に取り組む団体を応援することにより、町内外の住民が参加したこれまでにない新たな公益的・社会貢献的なまちづくり活動が行われた。 ・交流人口25万人に向けて、引き続き観光客受け入れ体制を整えるとともにPRを積極的に行う。 ・交流人口の拡大を定住人口の維持につなげる仕組み作りについて、更に深めていく必要がある。 <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p> | | | | |
| 本プロジェクトに対する自己評価 | 関連事業との連携効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・フォトスケッチコンテストの開催により、住民の郷土愛の醸成につながり、町外の方へのPRにもつながった。 ・住民との協働で開催される「茶源郷まつり」では過去最高の来場者数を記録し、住民相互のコミュニケーションが促進され、町全体での観光客の受け入れ体制へとつながった。 | | | |
| | 府と市町村等との連携に資する成果 | 宇治茶の生産量の大部分を占める本町にて、茶業の推進を図ることで、山城地域を中心に府が世界遺産への登録を目指している「宇治茶」ブランドの価値の向上につながった。 | | | |
| | 住民の自治意識を高める成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民団体の主催により地域の伝統行事を復活させる取り組みが行われるなど、地域住民がふるさとに誇りを持つことができ、自分たちが地域を支えるという自治意識の向上につながった。 | | | |
| | リーディング・モデル成果 | | | | |
| | 広域的波及成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・茶源郷まつりをはじめとして、住民団体主催のイベントなどにも多くの来場者があり、「茶源郷和東」のPRにつながった。 ・「日本で最も美しい村連合」の活動により、全国に「茶源郷和東」をPRすることができた。 | | | |
| | 行財政改革に資する成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学の中村講師が代表理事を務める（一財）地域経営推進センターと協働し、若手職員への研修を通じて役場全体の仕事を考えて行動するきっかけになった。 | | | |
| | その他の成果 | | | | |

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。